

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195
法人名	社会福祉法人 親孝会
事業所名	グループホーム太陽の郷
所在地	〒820-0001 福岡県飯塚市鯉田516-17
自己評価作成日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月21日	評価結果確定日	平成24年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の5月で開設3年目を迎えます。社会福祉法人 親孝会は平成6年4月～飯塚市下三緒に特別養護老人ホームをはじめ、シュートステイ・ケアハウス・ディサービス・居宅支援事業所を運営しており新たに平成21年5月より、飯塚市鯉田で介護付有料老人ホーム・グループホームも運営を開始しました。当施設スタッフのみではなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着の精神を重視して利用者個人個人に合わせた介護を実践しています。法人としてISO14001を取得しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目を迎える中、新たに作成された4項目の理念のもとに、個別支援の追求や、地域・家族との関係性を深めるべく取り組んでいる事業所である。特に、個別の地域性に目を向け、それぞれの方にとっての馴染みの地域行事へ参加したり、縁のある場所への外出支援に力を入れている。管理者は、地域の長さん会議(各長の集まり)に出席し、情報収集や連携を深めたり、また、新たに発足した「地域密着型サービス連絡協議会」の準備段階から関わり、行政や事業所間の連携体制の構築に向けて取り組んでいるところである。法人全体や、併設事業所としての連携を活かしながら、入居者本位の支援や、地域の中での存在を高めており、今後の活動展開が大いに期待される。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最近、理念を作り直し、新たに掲示した。再度共有させる為に新たに取り組んでいる	法人の理念のもとに、新たにホ - ム独自の運営方針が作成されている。毎月の全体会議の中で取り上げながら、共有を図り、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流を活発化させるべく全力で取り組んでいる。地域の行事には可能な限り参加している	管理者は、地区の長さん会議(地区の各長が集まる会議)に参加し、情報の共有や意見交換を行っている。また、協力医療機関の医師を講師に招き、家族や地域に案内を出して、認知症についての講座を開催している。入居者の個別の地域性にも目を向け、それぞれの方の地元行事にも参加できるよう支援している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	穎田病院医師による認知症講座を開催する等、取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、定期的を実施しており御意見・ご指摘は積極的に取り入れている。まだ改善の余地はある。	自治会長・民生委員・公民館関係者・地区社協職員・市職員等の参加により、定期開催されている。家族への案内は行われているが、現在のところ出席を得られておらず、来訪時に報告を行っている。	地域からの参加は多く、様々な視点から話し合いを行い、サービス向上に結び付けている。家族意見の収集や、家族関係機能の更なる活用に向けて、継続して参加への働きかけに期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度の介護相談員の訪問を受け入れている。必要に応じ随時報告相談実施している	飯塚市地域密着型サービス連絡協議会の発足にあたり、行政担当者との連携を図りながら、準備段階から関わり、役員を務めた経緯もある。月1回、介護相談員の訪問を受け入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実施している。玄関は併設の介護付有料ホームからほとんど出入りしているため、玄関の機能があまり果たされていない	協力医療機関より医師を招き、認知症講座が開催されており、質疑応答やディスカッションが行われている。認知症への理解を深めながら、職員間で共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行っていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修等を行い、取り組んでいる		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名成年後見制度を利用している事もある。事務職員とのやりとりが多いので、今後介護スタッフにも更に周知徹底する必要がある	権利擁護に関する制度について、資料の整備や関係機関からの案内を掲示している。また、入居時にも情報提供を行っている。現在、制度を活用している方もおり、今後も継続して学ぶ機会を持ち、理解を深めていく予定としている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解、納得が図れるように取り組んでいる。利用者本人への説明は今後の課題である		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時受け付けている。可能な物は適宜対応して実現出来る様努力している	第三者委員を設置し、家族への案内を行っている。家族来訪時の会話や、情報共有を通じて、家族意見の収集に努めている。出された意見は、速やかに検討を行い、運営への反映に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、各部署会議等開催し反映できるように取り組んでいる	全体会議や、サービス向上委員会でもあるリーダー会議、施設長の参加する運営会議等において、職員意見を検討し、運営への反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが更にモチベーションを高めるよう、一層の努力が求められると考えている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している	法人としての採用となり、年齢や性別による制限は行っていない。研修参加や資格取得に向けた配慮、また、半年毎のリーダー制や、自己評価やスキルチェックを行い、馴染みの関係性に配慮しながら法人内の異動を経験し、自己実現の可能性を広げている。ハローワークを通して、採用を行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	努めている。更に取り組んでいく。	法人としてや施設内研修を通じて、また、グループホームとしての新たな理念の共有を通じて、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修・講習は随時実施している。まだまだ改善向上の余地はある。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着サービス協議会役員に就任。徐々に他施設との交流は進みつつある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。更に取り組んでいく。訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしているし、相談にも応じている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と綿密に連絡を取りながらサービスを提供出来る様努力している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの精神を基に取り組んでいる		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と綿密に連絡を取りながらサービスを提供出来る様努力している。概ねご家族との関係は良好である		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の出身地の行事や祭りに積極的に参加する等、当施設が力を入れて取り組んでいる事の一つである	個別の地域性に目を向け、住み慣れた地域の行事へ参加できるよう、積極的に支援を行っている。家族の協力も得ながら、ライフスタイルの継続や馴染みの場所への外出等、個別性ある支援が行われている	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	全ての利用者が活発に交流出来ているとは言 えないが施設は孤立しない様取り組んでいる		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にお誘いしたりお手紙・写真を送る・法要に 参加させて頂く等、出来る限り努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	努め、日々検討しているが、決して充分ではな い。今後スタッフが重点的に取り組むポイントで ある。	センター方式を一部活用し、情報収集を行ってい る。個別処遇の充実を目標として掲げ、介護計画 への反映に努めている。様々な視点から、思いや 意向の把握に努め、今後も充実に向けて取り組 む意向である。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	これまでも務めてきたが一部センター方式を導 入して更に把握出来る様取り組みしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	努めている。更に深く把握し、ケアに繋げるよう 取り組んでいる。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	管理者・ケアマネを中心にリアルタイムに対応し た計画を立案実施出来る様取り組んでいる。ス タッフの入れ替え等に伴い、更に強化していく予 定。	本人、家族の参加する担当者会議を開催してい る。また、各担当者によるモニタリング・評価を、 計画作成に反映させている。センター方式等を活 用しながら、生活歴やライフスタイルの把握に努 め、計画作成に活かしていけるよう取り組んでい る。	個別のニーズに応じて、本人、家族の役割 を具体的に示していくことも検討して下 さい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は開設当初より充実できるよう取り組んで いるがまだ十分ではないと考える。更にスキル アップできるよう努めたい。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護付有料ホームや法人全体でバックアップ出来る体制を取っており、実践している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設3年を迎え、徐々に地域に浸透してきている事を活かし更に地域性を熟知しケアに繋げたい。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、提携先の潁田病院に同意の上、転院して頂いているが、個別に柔軟に対応している。	入居時に、かかりつけ医について確認している。また、希望による歯科医の往診も、随時対応している。家族の協力も得ながら、他科受診や専門医への受診を支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護付有料ホーム看護師の協同があり、往診・受診・対応等スムーズに出来ている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の介護付有料ホーム看護師の協同があり、入退院対応等スムーズに出来ている。提携病院との連携もスムーズに行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名の看取り経験(+併設施設1名)している。GHでの看取りに関する研修にスタッフを派遣する等、積極的に取り組んでいる。	今年度は、重度化や終末期に向けた指針を見直し、内容の充実を図っている。これまでに看取りを支援した経緯もあり、研修を重ねながら、支援体制の構築に取り組んでいる。入居時の説明や意向確認、また状況の変化に伴い、関係者間での話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習を、介護スタッフ全員参加実施する等、強化して取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成24年4月、防災訓練を計画している。地域との連絡調整は、地区長さん会議等で意思疎通を図っている。	消防署の協力を得ながら、避難訓練を実施しており、施設全体で備蓄品も用意されている。また、地区合同での救急救命訓練の実施や運営推進会議、長さん会議を通じて協力要請を行っている。新たに発足した「地域密着型サービス連絡協議会」の目標として、災害時の連携体制作りを掲げている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ているが、今年度の施設の目標を接遇・言葉使いの強化を予定しており、強化して取り組んでいる。	親しき中にも、人格やプライバシーを損ねない対応となるよう、24年度の目標として取り組む予定としている。毎月の会議等において、新しい理念にそって話し合いを行い、意識を深めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、充分組み取れていない可能性もある。一層心がけなければならないと考えている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	働きかけているが、充分組み取れていない可能性もある。一層心がけなければならないと考えている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り努めている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特殊食事形態(ペースト食・全粥刻み)や特別食(ワーファリン食・糖尿食)等あり、準備・片付けはなかなか出来ていない。実質、施設厨房で作っている。代わりにおやつ作りは頻回に実施している。	併設施設厨房での調理となり、食事形態や疾病状況に応じて、細やかな対応が行われている。毎月、ホームでの調理の日を設けたり、手作りおやつ作りを行うことで、食のプロセスを楽しむ機会を持っている。全体や個別での外食の機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事形態を提供している。水分チェックは毎日確実に実施している。好みに合わせて種類も複数用意している。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアを実践している。法人全体で口腔ケアを重視した取り組みを実施している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。よほどの体調不良時を除き、トイレ(ポータブル)での排泄に努めている。	排泄チェック表を用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中は、さりげない声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間については、個別の状況を鑑み、対応を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師の指示指導の元、取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設施設と入浴設備が共用である事もあり、入浴日は施設側で計画実施している。入浴の自由化は理想的であるが、現在は困難である。	浴室は併設施設との共用となっており、スケジュールや設備的な制限はあるが、リフト浴も設置されており、個別の状況への対応が可能となっている。ゆっくりとした入浴を楽しめるよう支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人に合わせて出来ている。夜間は概ね皆様良眠されている事が多い。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師の指示指導の元、取り組んでいる。誤薬の無いよう徹底的に取り組んでいる。不必要な内服も可能な限り減量に取り組んでいる。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援の努力はしているがまだ向上の余地はある。徐々に実現出来るよう取り組んでいる。		



福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の希望に対応出来ている訳ではないが、徐々に実現している。その方所縁の場所や地域にご家族と出かけられるよう企画実施している。最も拘っている事の一つである。</p>	<p>入居者個別の地域性に目を向け、家族とともに地元の行事に参加できるよう支援を行っている。また、外出行事としては、国民宿舎での食事、どんど焼き、飯塚東町商店街飾り山笠の見学、英彦山での紅葉狩り等、積極的に出かけている。広い中庭にはウッドデッキも設けられ、気軽に外気浴を行うことが出来る。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>出来ていない。現実的に管理は施設がさせて頂いている。必要に応じて預かり金で買い物代行等で対応している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者が電話を希望される事は殆ど無いが、あれば対応出来る。毎月、その月の様子を収めた写真付きのスタッフ直筆の手紙を送っていて、好評を得ている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>配慮・工夫している。整理整頓の意識は強くなっている。</p>	<p>広い中庭を中心として、併設されている施設と回廊式でつながっている。花壇や菜園のある中庭には、ウッドデッキも施され、気軽に外気浴を楽しむことが出来る。ソファの設置等、くつろぎの場所を確保している。明るく、清潔感があり、換気等への配慮も行われている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られたスペースであるが、出来るだけ自由に過ごして頂けるよう工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人個人のお好みに合わせ自由にして頂いている。現在お泊りのご希望は無いが、あれば適切に対応出来る。</p>	<p>各居室入口には、入居者の手による作品や行事の際の写真が飾られている。洗面台が備え付けられており、筆筒、冷蔵庫、テ-ブルセット、ソファ等が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>極力リスクを排除し、工夫している。</p>		